

事務事業名	里山獣害対策森林整備事業		所属部局	農林商工部		単位番号	6011							
			所属課室	農林振興課		課長名	野田栄志							
	☐ 実施計画事業		所属担当	森づくり担当		担当者名	清水 久							
基本政策	基本計画体系	IV	快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目			
		19	自然環境の保全と活用		01	一般	0	6	0	2	0	2	0	2
政策		32	自然と共生する地域づくり	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金									
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 期間限定複数年度 (年度) ~ 年度)				法令根拠	なし								
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 ・里山地域の山林の下草刈り、除伐、間伐等の森林整備を行い、人と動物の緩衝地帯設置し、猿、イノシシ等の野生動物が集落や田畑などの人間の生活圏に入りにくくする事業。			事業費の主な内訳 (22年度)										
				項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)				
				需用費		1								
				委託料		1,252								
				計		1,253								

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と目標

① 活動	
22年度活動実績	中野地区にて実施 (9ha実施)
23年度活動予定	実施地域は上市之瀬・平岡地域
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
獣害対策用電気柵設置されている周辺の森林(自然資源等)	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていくなのか、どのように変えるのか)	
山地と農地の境にある電柵から山側エリアの約20から50m内の除伐・間伐・枝打ちを実施し緩衝帯を作ることにより、猿やイノシシなどの野生動物が入りにくくする。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
整備地域の農作物の収益の増及び獣害の減少	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 事業エリアの面積	ha
イ 実施延長	km
ウ	
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 緩衝帯の山林面積	ha
イ 電気柵距離	m
ウ	
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 野生動物の被害減少の割合	%
イ	
ウ	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 自然と共生が図られていると感じている市民割合	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円	1,879					
		地方債	千円						
		その他	千円	81					
		一般財源	千円	579	1,252	1,573	1,563	1,563	
	事業費計 (A)		千円	2,539	1,252	1,573	1,563	1,563	0
	人件費	正規職員従事人数	人						
		延べ業務時間	時間						
		人件費計 (B)	千円	0	0	0	0	0	0
		(A)+(B)	千円	2,539	1,252	1,573	1,563	1,563	0
活動指標	ア	ha		15.8	1.6	1.6	1.6	1.6	
	イ	km		1.5	0.8	0.8	0.8	0.8	
対象指標	ア	ha		5.0	1.6	1.6	1.6	1.6	
	イ	m		1.5	0.8	0.8	0.8	0.8	
成果指標	ア	%							
	イ								
上位成果指標	ア	%		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	イ								

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	里山の農地にて野生動物による作物被害が多く、電柵などで侵入を防いでいるが、山林も整備し入りにくくすることも必要のため、里山エリア再生交付金事業の一環として20年度より始まる。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	森林内を整備することで野生動物の侵入は減少していると思われるが、こればかりとはいえない。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	電柵の設置と平行して森林整備も必要との意見が多い。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	21年度までは里山エリア再生交付金事業の補助を受け実施したが事業仕分けにより廃止になったため、22年度残地を市単独予算にて実施した。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	市単独予算にて実施した。

事務事業名	里山獣害対策森林整備事業	所属部	農林商工部	所属課	農林振興課
-------	--------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 森林整備に繋がり、獣害対策にも結びついている。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 広い範囲にて実施しなければ意味が無い事業のため妥当と考える。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 里山獣害対策森林整備は、里山エリア再生交付金事業にて実施しており、国の事業仕分けにて、事業廃止が決まりましたが、財源確保が難しい状況であるから、市独自にて事業を推進する必要がある。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 既に補助金はないため、今後事業を拡大実施していく財源確保が困難である。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 獣害の被害が拡大する。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 国、県、市と地元の人たちと共同で行う事業のため。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方・の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 森林整備単価は県の標準単価で行うため
	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 森林整備は急傾斜による除伐の作業等に熟知している専門団体にて作業していただいている。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	国、県の補助事業にて実施した事業で、補助事業が廃止になったが、人と動物との緩衝帯を作ることにより、獣害対策に有効であり里山の整備にも繋がるので、市単独事業として実施する必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について																								
①																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①		成果優先度評価結果	⑧																					
②																								
③		コスト削減優先度評価結果	⑥																					